

Swift、国際送金取引における CBDC のシームレスな導入に向け、相互運用ソリューションの多様な活用事例を発表

- グローバルにサービスを展開している 38 の金融機関と共同で実施した実証試験により、デジタル貿易の取引、有価証券、外国為替の各分野で Swift ソリューションの新たな活用事例を検証
- Swift ソリューションにより、金融機関は CBDC などのデジタル資産を容易に業務へ導入可能
- コネクタは複数のネットワークのインターリンクを可能にし、自動取引フローやトークン化の成長の鍵を握る

2024 年 3 月 25 日、ブリュッセル – Swift は、中央銀行デジタル通貨（CBDC）の相互運用ソリューションに関して業界全体で実施したサンドボックス試験の第二フェーズの結果を発表しました。本試験において、金融機関が Swift のコネクタを利用すると、CBDC などのデジタルトークンで幅広い金融取引を実行することが可能となり、CBDC を容易に既存の業務へ導入できることが確認されました。

本試験は、CBDC に関する公表済みの試験として最大規模であり、中央銀行や商業銀行のほか市場インフラなど合計 38 機関が参加しました。試験の結果、Swift のソリューションは、貿易の際のフローの簡素化と高速化、トークン化証券市場の成長促進、および効率的な外国為替決済を実現できる可能性があることが判明しました。また、金融機関が既存インフラの利用を継続しながら、それらのメリットを実現できることも実証されました。

相互運用性は、インスタントかつフリクションのない取引を目指す Swift の戦略にとって非常に重要です。異なる技術や標準、プロトコルでデジタル通貨が開発されることによって引き起こされる断片化の潜在的なリスクをはらんでいるため、本試験ではデジタル通貨やトークン化資産の相互運用性に焦点を当てました。Swift のソリューションは、異なるネットワーク上において、CBDC 間および CBDC と法定通貨の間での国際送金や接続を実現できることが既に実証されています。

第二フェーズとなる今回のサンドボックス試験では、さらに複雑な活用事例を検証しました。Swift のソリューションを使用して、デジタル貿易での取引のシミュレーション、トークン化資産と外国為替ネットワーク、および CBDC を用いた決済について、接続とオーケストレーションの試験を実施しています。また、本試験では 750 件以上の取引を実行しました。

デジタル貿易については、今回の共同試験において、異なるデジタルネットワークおよび貿易プラットフォーム間の相互運用性が実証されました。ここでは、Swift のソリューションにより、アトミック貿易決済（資産の移転を順次ではなく同時に行う決済）が円滑に実施されました。スマートコントラクトやイベントドリブン・プログラミングにより、特定の条件を満たした場合にのみ、決済を自動化できるため、貿易フローを 24 時間年中無休で自動化できる可能性があるといえます。Swift のソリューションを利用す

れば、国際貿易の取引遅延の軽減、当事者間における信頼性の向上、および取引コストの大幅な削減を実現できる可能性がある点についても、参加金融機関は指摘しています。

有価証券については、トークン化プラットフォーム間の相互運用性の欠如が、トークン化の成長の障壁となっているという現状があります。今回の試験では、Swift のソリューションにより、複数の資産および現金のネットワークをインターリンクすることが可能であり、どのプラットフォームでもアトミック DVP (Delivery Versus Payment) 決済を円滑化できることが実証されました。トークン化は新たな市場であり、流動性の改善や取引コストの削減、あるいは透明性やセキュリティの向上に貢献する可能性を秘めているため、業界では大きな関心が集まっています。

外国為替については、コネクタが重要な役割を果たすことが今回の試験で実証されました。CLS と密接に連携することにより、コネクタで既存の市場インフラとの相互運用性が実現可能であり、CBDC を用いた外国為替ネットワーキングや決済を円滑化できることが明らかとなりました。

Swift のチーフ・イノベーション・オフィサーであるトム・ツイシャック (Tom Zschach) は次のように述べています。「Swift はコミュニティであり、金融業界を取りまとめています。このような重要な技術革新の試験を通じて、金融機関が既存インフラの大半を使用しつつ同時に新しい革新的なテクノロジーを利用できることを実証できました。断片化は業界全体の課題であり、断片化への対応にはネットワーク間の相互運用性を確保することが不可欠であるとともに、新しいテクノロジーを拡大することで、その可能性を發揮できるようになります。」

報告書の全文は[こちら](#)でご覧いただけます。Swift では、ソリューションの適用範囲を CBDC からさらに拡大し、トークン化預金プラットフォームなどの新しいデジタルネットワークに幅広く対応させることを現在検討しています。

今回のサンドボックス試験には、世界中の金融機関が参加しました。中央銀行および金融当局については、オーストラリア、チェコ、フランス、ドイツ、シンガポール、台湾およびタイの中央銀行などが参加しています。商業銀行および市場インフラについては、オーストラリア・ニュージーランド銀行、シティバンク、CLS グループ、シンガポール開発銀行、ドイツ銀行、DTCC、香港上海銀行、華南銀行、インターザ・サンパオロ、ナットウエスト・グループ、サンタンデル銀行、ソシエテ・ジェネラル、スタンダードチャータード銀行、三井住友銀行、上海商業貯蓄銀行、南アフリカ・スタンダード銀行、ユナイテッド・オーバーシーズ銀行、およびウエストパック銀行が参加しました。

ドイツ銀行のデジタル資産・通貨トランスフォーメーション責任者であるサビブ・ベーザド (Sabib Behzad) 氏は次のように述べています。「DLT ネットワーク間の相互運用性は重要な構成要素であり、CBDC とその他のネットワークとの効率的な接続を可能にし、サイロ化を防止します。商業銀行や中央銀行など 38 機関が、DVP や外国為替などについて Swift のソリューションをテストすることは、断片化の解消とフリクションのない取引に向けた重要な歩みとなります。」

香港上海銀行のグローバル決済ソリューション部門で国内およびエマージング決済のグローバル責任者を務めるルイス・サン (Lewis Sun) 氏は次のように述べています。「トークン化や CBDC がもたらしうる恩恵を実現するには、新興市場インフラと既存市場インフラとのインターリンクが可能であることが必要不可欠です。当行は今後とも、Swift および業界各社と協力して、異なるネットワーク間におけ

る PVP 決済、DVP 決済および貿易取引決済の効率化を目指し、オープンかつ包摂的で特定のテクノロジーに依存しないモデルの開発を支援してまいります。」

インターザ・サンパオロのグローバル・トランザクション・バンキング部門グローバル責任者であるステファノ・ファバーレ（Stefano Favale）氏は次のように述べています。「Swift コネクタは、CBDC やデジタル資産プラットフォームを支える各種テクノロジーのインターリンクにとって有用であり、断片化のリスクを軽減し、革新的な市場の成長に向けた基盤を作ります。」

サンタンデー銀行の Swift および CIB 決済責任者であるカルメン・レイ（Carmen Rey）氏は次のように述べています。「将来の CBDC エコシステムには相互運用性が必要です。今回の取り組みは既存の接続を活用して、その必要性に対応するものです。これにより、新しい複雑なデジタル決済の世界における CBDC へのアクセスやその活用が容易になります。また、CBDC の利用を拡大するためのもうひとつの重要な成功要因である、標準化と共通規則の必要性に関する解決策にもなっています。」

CLS の公共政策グローバル責任者であるディルク・ブルマン（Dirk Bullmann）氏は次のように述べています。「Swift および業界主要企業と共同で実施した試験により、革新的なテクノロジーを探求する取り組みが、リスクの軽減と効率性の向上だけでなく、高水準の強靭性も実現することが実証されました。外国為替決済サービスの主要プロバイダーである CLS は、Swift によるサンドボックス試験への参加を通じて、CBDC の世界ではクロスカレンシーのネットィングや決済をどのように設計しうるかについて理解を深めることができました。」

本実証試験について

6 カ月にわたる今回の試験では、ワーキンググループ会合とサンドボックス環境における実地調査という 2 つの流れに分けて実施しました。Swift は 20 回のワーキンググループ会合を開催し、各会合には平均で 60 名が参加しました。サンドボックス環境のインフラについては、38 機関に対して 4 カ月間にわたり提供されました。また、それらの組織から 125 名のユーザーが参加し、サンドボックス環境におけるテストを目的としてオンボーディングを受けました。

ワーキンググループ会合は、活用事例ごとにビジネス関連とテクノロジー関連に分かれ、参加組織はそれらの各専門グループで活用事例と実施予定ソリューションについて定期的に協議を行いました。会合には全参加機関の各部門から代表者が出席し、各活用事例に関する設計上の重要な決定事項、役割と責任、および実装上の検討事項について参加機関がレビューを実施しました。また、相互運用ソリューションである Swift コネクタの重要な要素についてもレビューが行われました。設計内容が承認されて活用事例が固定された後に、Swift のチームがサンドボックス環境にコネクタを実装して参加機関によるテストおよび検証を行い、以後検討すべき点についても意見を求めました。

ワーキンググループには全世界の金融機関が幅広く参加し、各種のポリシー、規制体系、AML 基準、テロ対策の要件を反映しました。また、このグループには有力な中央銀行、商業銀行、地方銀行、市場インフラも参加していました。

ワーキンググループは、実施予定ソリューションの実装に関する調査と協議を各組織が協力しながら行い、かつ参加者間の相違を考慮する上で重要な役割を果たしました。また、サンドボックス環境での実地テストによる「実際に見せて説明する」というアプローチを採用したことにより、ソリューションに現実性を持たせることができました。試験期間中には、さまざまなユースケースのサンドボックス環境において 750 件以上の取引を実行しました。

国際銀行間通信協会（Swift）について

Swift はメンバーによって保有されたグローバルな協同組合であり、安全な金融メッセージングサービスを提供するリーディングプロバイダーです。Swift は金融コミュニティに対し、通信に必要なメッセージングおよびその標準化を支えるプラットフォームのほか、決済ネットワークへのアクセスやシステムの統合・連携、認証、分析、規制コンプライアンス等にかかる製品およびサービスを提供しています。

Swift は 200 を超える国と地域における 11,000 以上の銀行、証券会社、市場インフラ、事業法人等をつなぐ通信プラットフォーム、および各種製品・サービスを提供しています。Swift 自体は資金を保有せず、顧客の口座を管理しないものの、グローバル・コミュニティのユーザーに対し、金融メッセージを確実に交換する方法を提供することで安全なコミュニケーションを可能にします。これにより、国内外の金融取引に加え、世界中の貿易と商取引を支えています。

Swift は信頼できるプロバイダーとして卓越した運用を絶えず追求し、コミュニティによるサイバー攻撃への対処をサポートします。また、コストを軽減し、リスクを削減し、業務の非効率をなくす方法を常に模索しています。当社の製品およびサービスは、コミュニティ内のアクセスと統合、ビジネス・インテリジェンス、参照データと金融犯罪コンプライアンスのニーズをサポートします。また Swift は国際・地域・国内レベルで金融コミュニティを取りまとめ、市場慣行の形成やスタンダードの定義、共通の関心分野に関する議論を推進しています。

Swift はベルギーに本社を置き、国際的なガバナンスと監督を通じて、組合体制の中立的かつグローバルな特性を発揮します。また、グローバルなネットワークを通じて、すべての主要な金融センターで積極的に活動を展開しています。

【報道関係者様からのお問い合わせ先】

Swift 広報担当 ウェバー・シャンドウィック トウ・未永

電話: (03) 5427-7411 / 7311

メール: SwiftJapan@webershandwick.com